

5.19

■司会 其山 守美 <鳥取県> 西部教育事務所 社会教育主事

池田 博文 <福岡県> 福岡県教育庁南筑後教育事務所 社会教育主事

1. 地域人材の活用による寺子屋教室とカルチャー教室の実践

13:30~13:55

廣瀬 武史 <熊本県> 小川町立小川小学校 教諭

総合的な学習の時間のカリキュラムを充実するため、地域の人材を活用した開かれた学校づくりに取り組んできた。地区公民館の協力を得て、地域の人々との交流を目指した「寺子屋教室」、地域の方々の支援による「カルチャー教室」を創設した。地域との交流を通して、子どもたちの地域認識が変わり、同時に地域の方々の学校への関心が向上している。地域の教育的協力を定着させるための「小川教育ネットワーク」の充実がこれからの課題である。

2. 創作ボランティア「はまゆう生活学校」の学校支援活動

13:55~14:20

三原キクエ <大分県> はまゆう生活学校 会長

はまゆうは海浜に位置する蒲江の町花である。はまゆう生活学校は昭和62年に開始され、ヒオウギ貝、アコヤ貝などふるさとの自然素材を細工・活用したボランティアの創作・学習支援活動である。活動の範囲は自分達の創作活動を越えて、近隣の学校の活動支援などにも拡大し、生活学校に対する人々の理解と評価も高まり会員の拡大にも成功している。

~ ティータイム ~

14:20~14:55

3. 地域集団のネットワーク化と人材活用による学社融合

14:55~15:20

徳永 惣一 <熊本県> 玉東町学社融合推進実行委員会事務局 (社会教育課長補佐)

地域の教育資源の有効活用を図り、学社融合の体制を組織地域の人材の支援を受けて、町の史跡を活用した西南の役に関する歴史学習、福祉施設の協力を得た体験活動など子どもたちがみずから実践するプログラムの創出を工夫。また、子どもたちの活動成果を住民に発表する機会を設けたことが、地域住民の学社融合方針の理解を促進すると共に、子どもたちの活動の自信に繋がっている。

4. 車椅子バスケットを通じた学社融合の取り組み

15:20~15:45

寺田れい子 <広島県> 車椅子バスケットボールクラブ鯉城 マネージャー

広島県車椅子バスケットボールクラブ(現在6チーム)は昭和55年の結成。広島市中心身障害者センターを中心に広島市、府中町の各学校で障害者と健常者の交流を目的として、車椅子バスケットを起点とした学社融合プログラムに取り組んでいる。少人数で行なわれる車椅子バスケットはスポーツの楽しみを通して確実に子どもたちの障害者理解を深化させている。今後の課題は子どもたちのスポーツ交流成果を保護者及び教師の認識の深化につなげていく事である。

5. 総括討論

15:45~16:15

6. 特別報告(4F大研修室)

「生涯学習実践研究20年の総括」~日本文化における知的風土の変革~

三浦清一郎 (社会教育・生涯学習研究者)

16:30~17:00